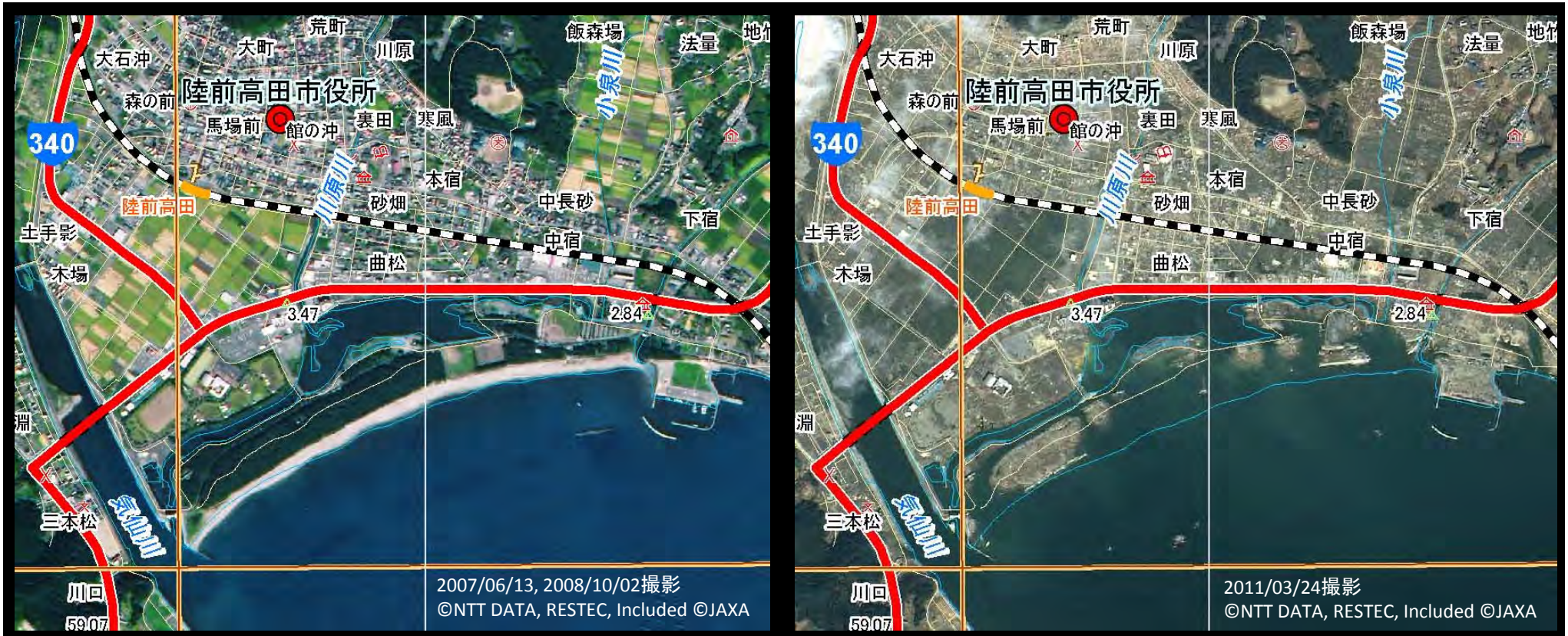
セミナー：人工衛星を活用した災害監視・防災活動の取り組み

講師：一般財団法人リモート・センシング技術センター　古田竜一、小野清孝



2011年東日本大震災前後の陸前高田市の様子（左：震災前、右：震災後）

- 1995年兵庫県南部地震を契機に、人工衛星データによる被害抽出が注目され、2006年には、我が国は災害監視を目的の一つとする衛星（だいち（ALOS））を打ち上げました。2011年東日本大震災では、一度の観測で被災域全体を観測し、被害の概要を把握することができること、また、高分解能衛星写真は、建物、橋梁、港湾施設等の人工構造物の被害を詳細にとらえることができ、人工衛星データが一層注目されるようになっています。
- 一方で、防災活動への取り組みは、大規模宅地造成地危険度評価のための基礎データの作成や政府、地方自治体等が実施する防災訓練等において地図付きの衛星写真が情報集約図の一つとして利用されるなど徐々に活用が進んでいます。
- 四国においては、高知県、徳島県が宇宙航空研究開発機構（JAXA）が実施する「人工衛星等による防災利用実証実験」に参加し、県が所有する防災関連情報を共有して、平時・緊急時に最適な情報を検討するなどの取り組みが実施されています。また、愛媛県においては、政府連携の国民保護訓練において、衛星写真が利用された実績があります。
- 本セミナーでは、上記の活動を紹介し、愛媛県の防災活動に人工衛星がどのように関われるか議論したいと考えています。

【　会場　】愛媛大学城北キャンパス内
社会連携推進機構2階研修室